

# Trauma- and Stressor- related Disorders

## DSM-5

### 反応性愛着障害 Reactive Attachment Disorder

- A. 以下の2つで表される、抑制された、感情的に引いた大人の保護者への持続的様式。
1. その子供は不快なとき、めったに、またはほとんど慰めを求めない。
  2. その子供は不快なとき、めったに、またはほとんど慰めに反応しない。
- B. 以下の少なくとも2つで特徴づけられる、社会的そして感情的な、持続的な障害。
1. 他者への社会的、感情的な反応性がとても少ない。
  2. 制限された肯定的な感情
  3. 大人の保護者との恐れることのない交流の中で確認される、説明できない怒りっぽさ、悲しみ、怖がりのエピソード。
- C. その子が、以下の少なくとも1つで確認される、極端に不十分な世話の様式を経験した。
1. 大人の保護者によって充足される慰め、刺激、そして愛情という基本的な情緒的刺激が持続的に欠如するという形式の社会的な怠慢または剥奪。
  2. 安定した愛着の機会が制限される、主要な保護者の交代の繰り返し。(例、頻繁な養育者の交代)
  3. 選択的な愛着の機会がひどく制限される、通常ではない状況での

育成。(例、子供に対して保護者が少ない施設)

- D. 基準Cにある世話が、基準Aにある行動の障害の原因となったと推測される(例、基準Aの障害が、基準Cにあるような適切な世話の欠如の後に生じている)
- E. 自閉スペクトラム障害には合致しない。
- F. その障害が明らかになったのが5歳より前ではない。
- G. その子の発達の年齢が少なくとも9ヶ月である。

該当すれば特定せよ：

**持続性 Persistent**：その障害が12ヶ月以上存在する。

現在の重症度を特定せよ：

その子供に障害の全ての症状が、そしてその各々の症状が比較的高い水準で現れていた時には、反応性愛着障害は**重症 severe**と特定される。

## 脱抑制性社交障害

### Disinhibited Social Engagement Disorder

- A. 知り合いではない大人に対し積極的に接近し交流を持つ行動様式が、以下の少なくとも2つで現れる、

1. 知り合いではない大人に対し接近し交流を持つ上での遠慮の減少または欠如。
  2. 過度の親密な言語的または身体的な行為(それは文化的な容認や年齢的に適切な社会的境界に合うものではない)。
- B. 基準Aの行為は、(注意欠如多動性障害にあるような)衝動的に行われるものに限られるのではなく、社会的に脱抑制性の行為を含む。
  - C. その子が、以下の少なくとも1つで確認される、極端に不十分な世話の様式を経験した。
    1. 大人の保護者によって充足される慰め、刺激、そして愛情という基本的な情緒的刺激が持続的に欠如するという形式の社会的な怠慢または剥奪。
    2. 安定した愛着の機会が制限される、主要な保護者の交代の繰り返し(例、頻繁な養育者の交代)。
    3. 選択的な愛着の機会がひどく制限される、通常ではない状況での育成(例、子供に対して保護者が少ない施設)。
  - D. 基準Cにある世話が、基準Aにある行動の障害の原因となったと推測される(例、基準Aの障害が、基準Cにあるような病因となる世話の後に生じている)
  - E. その子の発達の年齢が少なくとも9ヶ月である。

該当すれば特定せよ：

**持続性 Persistent** : その障害が12ヶ月以上存在する。

現在の重症度を特定せよ :

その子供に障害の全ての症状が、そしてその各々の症状が比較的高い水準で現れていた時には、脱抑制性社交障害は**重症 severe**と特定される。

◇ DSM-IVにおける反応性愛着障害の抑制型と脱抑制型が、DSM-5では各々「反応性愛着障害」と「脱抑制性社交障害」とされた。

## 心的外傷後ストレス障害

### Posttraumatic Stress Disorder

注釈 : 基準は成人、青年、6歳より上の子どもに適用される。6歳以下の子どもについては、該当する基準を見よ。

- A. 実際の死、危うく死にそうになること、重傷、または性暴への、以下の1つ以上の方法での暴露。
1. 直接その出来事を経験する。
  2. その出来事が他者に起きるのを目撃する。
  3. 近しい親族か友人に起きた外傷的な出来事について知る。家族か友人の、実際の死、または危うく死にそうになることについてであれば、その出来事は暴力による、または偶発的なものでなければならない。

4. 嫌悪するような出来事の場面に、繰り返しまたは非常に強く暴露される。(例、残された人体を集める作業に最初にとりかかる ; 児童虐待の場面に繰り返し暴露された警察官) ; これは仕事に関連するものでなければ、電子的なメディア・テレビ・映画・絵を通して暴露されたものには適応しない。

- B. 以下にの1つ以上によって示される、外傷的な出来事が起きた後に始まっている、その外傷的な体験に関連した侵入的な症状 :

1. 自然とわき起こる、不随意の、侵入的で不快な、その外傷的な体験の回想。

注釈 : 6歳以上の子どもの場合は、その外傷的な体験の主題か一面を表現する遊びを繰り返すことがある。

2. その出来事に関係した内容そして / または感情を含んだ反復的で苦痛な夢

注釈 : 子どもの場合は、内容が理解できない怖い夢であることもある。

3. その人がまるでその外傷的な出来事が再び起こっているかのように感じるか行動する解離性反応 (例、フラッシュバック) (そのような反応は一連のものとしてしよじ、その極度に強いものは現在の境遇に対する意識を完全に失う形で生じる)。

注釈 : 小さな子どもの場合は、遊びの中で外傷に特異的な再演が生じることがある。

4. その外傷的な出来事の状態を象徴する、またはその外傷的な出来事の状態に類似した、内的または外的きっかけに暴露されて生じる強いまたは延長された心理的な苦痛。
  5. その外傷的な出来事の状態を象徴する、またはその外傷的な出来事の状態に類似した、内的または外的きっかけに対する著しい生理学的反応
- C. 以下にの1つ以上によって示される、外傷的な出来事が起きた後に始まっている、その外傷的な出来事に関連した刺激の持続的な回避：
1. その外傷的な体験についての、または関係性が近い、不快な記憶か思考か感覚の回避か回避の努力
  2. その外傷的な体験についての、または関係性が近い、記憶か思考か感覚を誘発する外的なもの（人、場所、会話、活動、物体、状況）の回避か回避の努力
- D. 以下の3つ以上で確認される、外傷的な出来事が起きたあとに始まったか悪化している、その外傷的な出来事に関連した、感情と認知の否定的な変化：
1. 外傷的な出来事の重要な場面の想起不能（典型的には解離性健忘によるもの；頭部外傷やアルコールや薬物によるものではない）
  2. 自己か他者か世界に対する、持続的で誇張された否定的な考えか予測（例「私が悪い」「誰も信頼できない」「世界は全くもって危険だ」「私の神経系は永久に壊れたままだ」）
  3. 自己他者に対する批判を生む、その外傷的な出来事の原因か結果についての、持続的な歪められた認知
  4. 広範で否定的な感情状態（例、恐怖、おびえ、怒り、罪悪感、恥ずかしさ）
  5. 重要な活動への関心または参加の著しい減少
  6. 他者から孤立または疎遠になっているという感覚
  7. 肯定的感情を経験することの持続的な困難（例、幸福、満足、または愛情の感覚を持つことの不能）
- E. 以下の2つ以上で確認される、外傷的な出来事が起きたあとに始まったか悪化している、外傷的な出来事に関する誘発と反応の変化：
1. 典型的には人か物に対する言語的または身体的な攻撃で表される（全くあるいはほとんど原因がなくとも）怒りっぽい行動、または怒りの噴出
  2. 向こう見ずな、または自己破壊的な行動
  3. 過度な警戒
  4. 過度な驚愕反応
  5. 集中困難
  6. 睡眠障害（例、入眠または睡眠維持の困難または睡眠の不安定性）
- F. 障害（基準B・C・DおよびEの症状）の持続期間が1ヶ月以上
- G. 症状は臨床的に著しい苦痛または社会的・職業的・他の重要な領域における機能の障害を引き起こしている。
- H. 障害が物質（例、薬物治療やアルコール）の生理的作用や他の医学的

状態によるものではない。

該当すれば特定せよ：

**解離性の症状を伴うもの with dissociative symptoms**：その人の症状が心的外傷後ストレス障害の基準に合致し、それに加えてストレス対象への反応として、その人が持続的または反復的に以下のどちらかの症状を経験するもの。

**離人 Depersonalization**：あたかも自己の精神か身体から離れているように、外から傍観しているように感じられる持続的または反復的な体験（例、夢の中にいるような感じ、自己または身体が非現実と感じられる感覚、時間がゆっくり進んでいるように感じる感覚）

**現実感の喪失 Derealization**：周囲が非現実のように感じる持続的または反復的な体験（例、周囲の世界が非現実のように、夢の様に、離れて、または歪められたようにその人が体験する）

注釈：この亜型を使うには、解離性の症状が物質の生理的作用（例、ブラックアウト、アルコール中毒の間の行動）や他の医学的状态によるものであってはいけない。

該当すれば特定せよ：

**発症遅延 with delayed expression**：その出来事から6ヶ月間以上経つまで診断基準を完全には満たさなかった場合（ただ、いくつかの症状が始まる時期はそれよりも早いこともある）

| 5

## 6歳以下の心的外傷後ストレス障害

### Posttraumatic Stress Disorder for Children 6 Years and Younger

A. 6歳以下の子供で、実際の死、危うく死にそうになること、重傷、または性暴への、以下の1つ以上の方法での暴露。

1. 直接その出来事を経験する。
2. その出来事が他者に、特に身近で世話をしてくれる人に起きるのを目撃する。

注釈：電子的なメディア・テレビ・映画・絵だけを通して見たものは、目撃に含まない。

3. 両親か世話をしてくれる人に起きた外傷的な出来事について知る。

B. 以下にの1つ以上によって示される、外傷的な出来事が起きた後に始まっている、その外傷的な体験に関連した侵入的な症状：

1. 自然とわき起こる、不随意の、侵入的で不快な、その外傷的な体験の回想。

注釈：自然とわき起こる、そして侵襲的な回想は、必ずしも不快そうに見えず、遊びのなかでの再演で現れることもある。

2. その出来事に関係した内容そして／または感情を含んだ反復的で苦痛な夢  
注釈：その怖い夢の内容が外傷的な出来事と関係していることが突き止められないこともある。
  3. その人がまるでその外傷的な出来事が再び起こっているかのように感じるか行動する解離性反応（例、フラッシュバック）（そのような反応は一連のものとしてしょうじ、その極度に強いものは現在の境遇に対する意識を完全に失う形で生じる）。遊びの中で外傷に特異的な再演が生じることがある。
  4. その外傷的な出来事の状態を象徴する、またはその外傷的な出来事の状態に類似した、内的または外的きっかけに暴露されて生じる強いまたは延長された心理的な苦痛。
  5. その外傷的な出来事を想起させる物事への著しい生理学的反応
- C. 以下の1つ以上によって示される、外傷的な出来事が起きた後に始まっているか増悪している、その外傷的な出来事に関連した刺激の持続的な回避、あるいは、その外傷的な出来事に関連した、感情と認知の否定的な変化：
- 持続的な刺激の回避
1. その外傷的な体験を想起させる活動、場所、または物理的な物の、回避か回避の努力
  2. その外傷的な体験を想起させる人、会話、または対人的な場面の、回避か回避の努力
- 認知の否定的な変化
3. 否定的な感情状態の持続的な頻度の増加（例、恐怖、罪悪感、悲しさ、恥ずかしさ、混乱）
  4. 遊ばなくなることを含む、重要な活動への関心または参加の著しい減少
  5. 社会的に引きこもった行動
  6. 肯定的な感情の表出の持続的な減少
- D. 以下の2つ以上で確認される、外傷的な出来事が起きたあとに始まったか悪化している、外傷的な出来事に関する誘発と反応の変化：
1. 典型的には人か物に対する言語的または身体的な攻撃で表される（全くあるいはほとんど原因がなくとも）怒りっぽい行動、または怒りの噴出（ひどいかんしゃくを含む）
  2. 過度な警戒
  3. 過度な驚愕反応
  4. 集中困難
  5. 睡眠障害（例、入眠または睡眠維持の困難または睡眠の不安定性）
- E. 障害の持続期間が1ヶ月以上
- F. 症状は臨床的に著しい苦痛または両親、同胞、仲間、または他の世話をしてくれる人との関係、あるいは学校における障害を引き起こしている。
- G. 障害が物質（例、薬物やアルコール）の生理的作用や他の医学的状态

によるものではない。

該当すれば特定せよ：

**解離性の症状を伴うもの with dissociative symptoms**

**離人 Depersonalization**

**現実感の喪失 Derealization**

該当すれば特定せよ：

**発症遅延 with delayed expression**

## 急性ストレス障害 Acute Stress Disorder

A. 実際の死、危うく死にそうになること、重傷、または性暴への、以下の1つ以上の方法での暴露。

1. 直接その出来事を経験する。
2. その出来事が他者に起きるのを目撃する。
3. 近しい親族か友人に起きた外傷的な出来事について知る。家族か友人の、実際の死、または危うく死にそうになることについてであれば、その出来事は暴力による、または偶発的なものでなければならない。
4. 嫌悪するような出来事の場面に、繰り返しまたは非常に強く暴露される。(例、残された人体を集める作業に最初にとりかかる；児童虐

待の場面に繰り返し暴露された警察官)；これは仕事に関連するものでなければ、電子的なメディア・テレビ・映画・絵を通して暴露されたものには適応しない。

B. 外傷的な出来事が起きた後に始まっている、侵入性、否定的な気分、解離、回避、刺激の5つのカテゴリのうちどれからでも、以下の症状のうち9つ以上の存在：

侵入性の症状

1. 自然とわき起こる、不随意の、侵入的で不快な、その外傷的な体験の回想。

注釈：子どもの場合は、その外傷的な体験の主題か一面を表現する遊びを繰り返すことがある。

2. その出来事に関係した内容そして／または感情を含んだ反復的で苦痛な夢

注釈：子どもの場合は、内容が理解できない怖い夢であることもある。

3. その人がまるでその外傷的な出来事が再び起こっているかのように感じるか行動する解離性反応（例、フラッシュバック）（そのような反応は一連のものとしてしょうじ、その極度に強いものは現在の境遇に対する意識を完全に失う形で生じる）。

注釈：小さな子どもの場合は、遊びの中で外傷に特異的な再演が生じることがある。

4. その外傷的な出来事の状態を象徴する、またはその外傷的な出来事の状態に類似した、内的または外的きっかけに暴露されて生じる、強いまたは延長された心理的な苦痛、または著しい生理学的反応。

#### 否定的な気分

5. 肯定的感情を経験することの持続的な困難（例、幸福、満足、または愛情の感覚を持つことの不能）

#### 解離症状

6. 自己の周囲や自己の現実感変化（例、他者の視点からの自己視、茫然とする、時間が遅く感じられる）
7. 外傷的な出来事の重要な場面の想起不能（典型的には解離性健忘によるもの；頭部外傷やアルコールや薬物によるものではない）

#### 回避症状

8. その体験についての、または関係性が近い、不快な記憶か思考か感覚の回避か回避の努力
9. その外傷的な体験についての、または関係性が近い、記憶か思考か感覚を誘発する外的なもの（人、場所、会話、活動、物体、状況）の回避か回避の努力

#### 刺激症状

10. 睡眠障害（例、入眠または睡眠維持の困難または睡眠の不安定性）
11. 典型的には人か物に対する言語的または身体的な攻撃で表される

（全くあるいはほとんど原因がなくとも）怒りっぽい行動、または怒りの噴出

12. 過度な警戒

13. 集中困難

14. 過度な驚愕反応

- C. 障害（基準Bの症状）の持続期間が外傷的な体験の後3日以上1ヶ月まで

注釈：症状が、典型的には心的外傷の直後から始まり、少なくとも3日間続き、続いて1ヶ月までであることがこの障害の基準の合致に必要である。

D. 症状は臨床的に著しい苦痛または社会的・職業的・他の重要な領域における機能の障害を引き起こしている。

E. その障害が物質（例、薬物治療やアルコール）の生理学的作用や、他の医学的の医学的状态（例、軽度の外傷的脳損傷）によるものではなく、短期精神病性障害でよりよく説明されない。

## 適応障害 Adjustment Disorder

- A. はっきりと確認できるストレス因子に藩王して、そのストレス因子の始まりから3ヶ月以内に情動面か行動面の症状が出現。
- B. これらの症状や行動は臨床的に著しく、それは1つか両方によって裏

付けられている。

1. 外的な文脈、そして症状の重症度と現れ方に影響する文化的要素を加味した上で、そのストレス因子の重度または強さとはつり合わない著明な苦痛。
  2. 社会的、職業的、またはその他の重要な領域の機能における著しい障害
- C. そのストレス関連性障害は他の精神障害基準を満たさず、既に存在している精神障害の単なる悪化でもない。
- D. 症状は、普通の死別反応を示すものではない。
- E. そのストレス因子またはその結果が、ひとたび終結すると、症状がその後さらに6ヶ月以上持続することはない。

該当すれば特定せよ：

**抑うつ気分を伴うもの with depressed mood**：優勢にみられるものが、抑うつ気分、涙もろさ、または絶望感であるもの。

**不安を伴うもの with anxiety**：優勢にみられるものが、神経質さ、心配、過敏さ、または分離不安であるもの。

**不安と抑うつ気分の混在を伴うもの with mixed anxiety and depressed mood**：優勢にみられるものが、不安と抑うつ気分の混在であるもの。

**素行の異常を伴うもの with disturbance of conduct**：優勢にみられるものが素行の異常であるもの。

**情動および素行の混在性異常を伴うもの with mixed disturbance of emotions and conduct**：優勢にみられるものが、情動的な症状（例、抑うつ、不安）と素行の異常の両方が優勢なもの。

**特定不能 unspecified**：不適応的な反応で、適応障害のどの特定の病型にも分類できないもの。

| 9

この章には他に下記のもの分類されている。

- **Other Specified Trauma- and Stressor-Related Disorder**
  - ・ Adjustment-like disorder with delayed onset of symptoms that occur more than 3 months after the stressor
  - ・ Adjustment-like disorder with prolonged duration of more than 6 months without prolonged duration of stressor
  - ・ Ataque de nervios
  - ・ Other cultural syndromes
  - ・ Persistent complex bereavement disorder
- **Unspecified Trauma- and Stressor-Related Disorder**